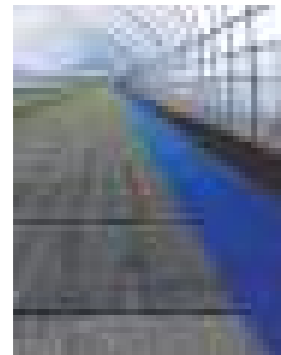


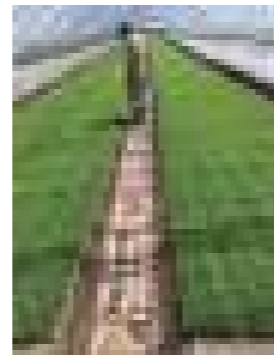
育苗ネットの効果確認試験



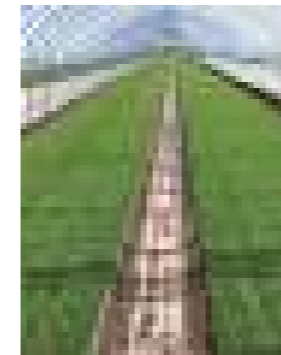
5月7日①



5月7日②



5月22日①



5月22日②

試験目的

シルバーポリトウに代わる育苗ネットの効果確認

試験作物
及び品種

水稻

試験資材
及び数量(規格)

らくら育苗ネット(2.7m×100m) 2枚

慣行資材

シルバーポリトウ

栽培方法

定植日

慣行区:4月末日
試験区:4月末日

資材使用期間

4月末日～5月末日

試験区面積

540㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

風にあおられにくく、軽かった。シート状になっていないので結露しにくいと思われる。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

2日程度遅れが出る。ネット状なので保温効果がシートに比べてないと思われる。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 焼けの心配がない。

【問題点】: 毎日水をかける必要がある、場合によっては1日に2回かけたところもある網目が均一でないため、多くかかるところと少なくかかるところがある。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

破れないかぎり使えると思われる。

(5)促成・抑制効果について

遅れは出るが後半に追いついてくる。

(6)保温効果について

ネットなのでシートに比べると下がる。しかしふち苗ネットと同じ理屈なので極端には下らない。

モニター感想

最近の育苗環境は高温であるため、焼けの心配が見られる。現に慣行品地区では焼いてしまったところもあった。試験品は焼く心配がないので、安心でき、水を毎日かけていればそろってきたので問題ないと思われる。

来年度は慣行品地区からの切り替えを図り、焼け防止を狙いたい。

JA担当者の感想(栗山営農センター 矢萩担当)

出芽するスピードは遅くなるが、苗焼けの心配がないため、その点では安心して使える商品だと思う。

灌水回数が増えることや、発芽がそろうまでの生育に多少ムラがでることなど、使う人を選ぶ商品だと思った。(手で灌水する人には労力がかさむため向かない)

一方で、出芽後も霜予防でかけ続けたという声もあり、ふち苗ネットのように使用したり汎用性も高い商品だと思われる。

破けない限り使える耐久性や、ネット状のため軽く扱いやすい点なども含めると利点も多い商品なので商品特性をよく説明し理解してもらったうえで、使用していただきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。